

## 谷川と越後駒追悼山行記

平成26年6月7日から8日

記 横山 高明



慰霊碑に献花



佐梨川林道で献花

65周年行事の一つとして、谷川に逝った水野、岩沢、両先輩と柴崎さんを慰霊し、越後駒、家の串尾根で逝った溝呂木さんを追悼するために、7日、大和さん、神谷さんと、私の3人で土合の慰霊碑を訪ね、その後小出からバスを乗り継ぎ、駒の湯で宿泊、8日の朝、駒が岳を遠望する佐梨川林道で線香を供え、溝呂木さんの冥福を祈った。

6日の夜は神奈川県のある幾つかの市町村に大雨警報が発令され、7日の交通機関も乱れ、心配したが、東京8時52分発のたにがわ311号で上毛高原下車、駅前から、10時15分発定期バスに3人で、土合慰霊碑前の道路で途中下車(バス停が無くても途中下車可)慰霊碑前で、お花とお線香を供え、合掌する。

上越線下り列車は13時52分、乗車まで時間は余りある、土合ドライブインで昼食を挟んで、しばし歓談、団体のクラブツーリズム一行と、土合の下りホームから、越後中里駅までご一緒する。明日は只見湖を観光予定されているようだ。

下り電車は2両編成、通学の学生や買い物姿の婦人で空席も目立つ、清水トンネルを抜けると土樽駅から魚野川が越後平野に広がっていく。水は濁りがなく、三国山脈を境にして北と南で天候は大きく変わる、出がけの雨が嘘みたい、明日も晴れてくれ。

越後湯沢を過ぎると右手の車窓に山腹に雪田を残す八海山が望まれる、今年は雪が少なそう、中の岳から越後駒方面はガスの中だ。

15時2分定刻に小出駅に着く、栃尾又温泉へ15時15分のバスがあり、途中の大湯温泉バス停まで揺られる。途すがら、右に金山沢の奥壁スラブが茶色に遠望出来た、明日は佐梨川林道から望めるかも、バス停から駒の湯へ電話を入れ、迎えを頼む。

暫くしてワゴン車で駒の湯へ 10分 駒の湯へ分岐する道路に数台の駐車を見る。枝折峠へは道路に雪があり通行止め、小倉山から登っているようだ。駒の湯は満室で、バスで訪ねたのは私達だけ、マイカーが一般のようだ。



部屋から駒が岳

部屋へ案内されると窓から駒の頂上が僅かに見える、郡界尾根とおつるみず沢を隔てる尾根に雪が重なる



駒の湯の露天風呂

駒の湯は33度のぬるま湯、五十数年前 小チョウナ沢を木登りし、雨の中をびしょぬれになりながら着のみ着のままで、飛び込んだ温かさを思い出す。テレビ、携帯電話は通じない。19時半には床に着く、大和さんと神谷さんの会話を聞きながら爆枕する。

8日は快晴、宿から上の佐梨川林道を暫く辿り、金山沢と郡界尾根を望む草原で、花と線香を手向けた。



神谷さん

大和さん



合掌する神谷さん

帰りのバスは10時27分のあと12時半まで無いとのこと10時に宿から大湯温泉まで送って頂く。

10時半のバスは3人を乗せ小出まで、途中4～5人の乗り降りがあつて10時50分小出駅前に到着、JR線11時3分の水上行きに乗車、越後湯沢12時03分のトキで帰京。



金山沢奥壁遠望